構築した制作ネットワークを活用、業務の効率化、人材確保、在宅勤務を軌道に乗せる

YKK六甲株式会社

企業プロフィール

YKK六甲株式会社
代表者：代表取締役社長　江口敬一
〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西4-2
TEL 078-857-3050
FAX 078-857-3054

◆業種および主な事業内容

社内報、広報誌、取扱説明書、商品カタログなどの印刷（製版・印刷・製本加工）

◆従業員数

16名（平成18年3月現在）うち障害者14名
＜内訳＞
　肢体不自由者5名（うち重度4名）、聴覚障害者7名（うち重度7名）、知的障害者2名（うち重度1名）

◆事業所の概要と障害者雇用の経緯

ファスナーとアルミサッシのメーカーで知られるYKK株式会社は、富山県黒部市に主力工場を置いているが、製造ラインの巨大化・自動化による職場環境の変化や車椅子使用者に対する受け入れ体制の未整備などから平成8年ごろから障害者の法定雇用率の達成が困難になっていた。しかも、平成10年から障害者の法定雇用率が1.6%から1.8%にアップすることもあり、抜本的な対策が急務となっていた。この打開策として本業にこだわらず障害者に適した業務を行う特例子会社の設立が検討され、当時年間30億円余り外部発注していたYKKグループの印刷物の一部を受注する事業化が決定した。

平成11年4月、YKK六甲株式会社は、YKKの特例子会社として肢体不自由者2名を含む10名の重度障害者を採用し、神戸市で操業を開始した（神戸市の特例子会社第1号）。

その結果、YKKはYKK六甲と合算して法定雇用率1.8%を達成した。

障害者が主役の事業運営を推進

操業開始5年目に営業収支黒字を達成、第二段階に向けて大きく前進

印刷業務の特例子会社を始めるにあたっては、関西にある他業種の先行企業にいろいろアドバイスを受けて、当初は単色でボリュームのある取扱説明書から始めた。そして、次第にカラーで技術的にも難易度の高い定期刊行物の社内報や広報誌というように、社員の技術の向上に合わせて、新たな挑戦を重ねてきた。その結果、平成15年には売上高3億円となり、営業収支黒字化を達成し、さらに売り上げを伸ばしている。

一方、ITの活用をベースに、①障害者が主役の事業運営、②障害者雇用と企業運営の両立、を経営方針に掲げて取り組んだ結果、平成16年には社員の中から課長職が、続いて3名のリーダーが誕生した。さらに一層の業務の効率化によって、真に障害者が主役となる会社への第二段階に向けて大きく前進しようとしている。

プリプレス部門を重点に、IT活用による業務の効率化と人材育成を図る

創業以来、YKK六甲では、制作、デザイン、編集、製版などのプリプレスから製本加工などのポストプレスまで一連の印刷を行っているが、なかでもプリプレス工程に重点を置いて人材の確保と設備の拡充を図り、IT活用による業務の効率化や人材育成など、さまざまな問題の解決に努めている。プリプレス工程はパソコンを中心とする職場で、そこでは、肢体不自由者5名（うち車椅子使用者3名）が活躍している。

印刷工程

製本加工など
ポストプレス工程

社内報、広報誌、取扱説明書
など制作物の一部

ここが聞きたい！　障害者が主役の経営

代表取締役社長　江口敬一

在宅勤務の可能性を追求し、第二ステージを目指す

現在、当社には16名が勤務しているが、私と派遣社員の経理担当を除けば、全員が何らかの障害のある人です。当社は「障害のある社員が主役の事業運営」を経営方針に掲げていますが、人員構成からいってもまさに障害者主役の経営なのです。

それだけでなく、平成17年には、待望の課長職に、続いて3名のリーダーが誕生し、真に障害者主役の経営が実現しつつあります。

同時に、当初の予定どおり5年目には営業収支黒字を達成でき、障害者雇用と企業経営の両立も図っています。

また、業務の効率化と人材確保の必要性から、苦労の末、軌道に乗り出した高速通信回線網、制作ネットワーク、オンラインビデオ会議などから職業能力開発校との連携が強化され、YKK六甲をキーステーション（中核）に障害者の能力開発や在宅勤務の可能性が広がってきました。

その意味ではYKK六甲は、第二ステージに向けて大きく羽ばたこうとしています。

問題点と対応策

遠距離の発注者との打ち合わせ、色校などはどのように処理するのか。納期は大丈夫か。

>> 高速通信回線網（GTRAX）を通じて瞬時に遠距離の発注者と画面上での打ち合わせを可能にしたことにより、納期の短縮にも貢献している。

▶詳細は29Pでクローズアップ

プリプレス部門の人材確保が非常に困難であった。

>> 制作ネットワーク構築による職業能力開発校との連携強化により、実践的な教育訓練による人材育成の可能性が生まれる。

DTP業務を中心にしたプリプレス部門の人材確保と、この分野の人材の職域拡大を図るために在宅勤務が可能かを模索した。

>> 職業能力開発校の連携強化の結果生まれた実践的な制作ネットワークによる試行的な在宅勤務システムが、人材育成だけでなく在宅勤務の可能性を高めている。

障害者のためのバリアフリーは徹底しているが、車椅子使用者から自分たちで戸締まりやセキュリティの管理ができないと、残業が必要になったときに不便であると問題が提起された。

>> 車椅子からのリモートコントロールとセキュリティ管理を可能にし、建物外部まで含め完全バリアフリー化が実現する。

ここが聞きたい！ 今後の在宅勤務制度

仕事量と勤務者の数を確保し、確実にスタートさせたい

松岡弘印刷課課長

これまで少人数のプリプレス部門をどう運営していくかに一番頭を悩ませてきました。

具体的には、発注者とのコミュニケーションをどう円滑にするかであり、非常に困難であった人材確保をどう実現するかでした。対策として、高速通信回線網や制作ネットワークが構築され、職業能力開発校との実践的な訓練プログラムが生まれました。

その結果、まだ小規模ながらようやく仕事を発注できるようになってきました。

今後は、発注できる仕事量を増やすとともに、仕事を受ける人員を確保しつつ、時間をかけ確実に在宅勤務制度を軌道に乗せたいと考えています。

そうなれば、能力はあっても通勤が困難なため働けない人たちにも、就労のチャンスを与えることになると思っています。

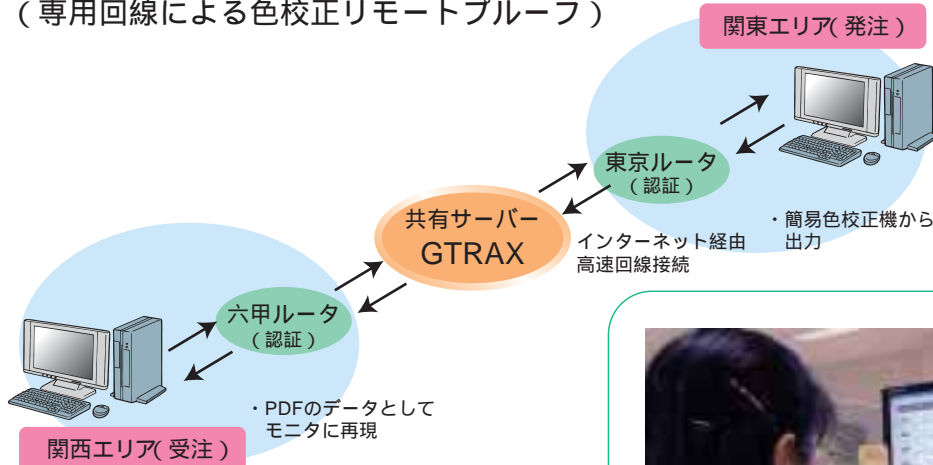
クローズアップ

1 高速通信回線網(GTRAX)を通じて瞬時に遠距離の発注者と画面上で打ち合わせ

YKK六甲の場合、印刷物の発注者であるYKK東京本社が500km以上の遠隔地にあるため、制作会議や編集校正、色校正などの打ち合わせに営業社員を必要に応じて参加させることができないという問題点や、納期は守れるか心配であるという問題点があった。当初は、発注者側の担当者に校正のためYKK六甲に来てもらったり、YKK六甲側から制作会議に出張したりして対応していたが、遠隔地間のやり取りが大きな制限であることに変わりはなかった。なかでも色校正は技術的に解決が難しく、納期遅れの原因となり、不信感や受注減少を招くことにもなっていた。

この最大の弱点を解決した方法は、高速通信回線網(GTRAX)を採用し、プリプレス工程の色校正をリモートプルーフによりパソコン画面上で作業できる環境にしたことである。

具体的には、次のような改善を行った。すなわち、発注者(東京本社)と受注者(YKK六甲)を高速回線で接続し、その回線上に共有サーバーを構築した。そして、①発注者側の制作会社で完成させたデータを共有サーバーにアップロードし、②共有サーバーに保管されたデータを校正段階でダウンロードして、色校作業を行うことを可能にした。それにより、発注者側の色校正機で最終稿をプリントアウトして確認願うことも可能になった。

通常、最短でも2日の日数が必要だった工程が、これにより最短5～8時間で可能になった。

発注者側に提出する見積書を作成中の九門香織さん

2 制作ネットワークの構築により職業能力開発校との連携を強化

プリプレス工程のなかでもDTP制作業務での人員不足を補うために募集活動を続けてきたが、現実にはYKK六甲の要件にかなう習熟した人材を確保することが非常に困難なことが分かってきた。そこで、訓練生の実習や指導員の研修など、さまざまな交流があった大阪市職業リハビリテーションセンターとの連携を強化して、中難易度の業務を発注するとともに、人材育成にもなる適切な方策がないかを検討することになった。

その結果、始まったことが、同センターとの間で制作ネットワーク（VPN）を構築し、制作物を同センターに発注し、実践的なプログラムを訓練生に提供することで職業能力の開発・向上を図る取り組みであった。

具体的には、両者の間を高速回線で接続し、その回線上に共有サーバーを構築して、制作の進行状況を確認できる工程管理ソフトを導入した。これまでの紙ベースによる校正を行う代わりに、YKK六甲と同センターがオンラインで同時参加して編集・校正を迅速に行えるローカルネットワーク同様の環境が実現した。

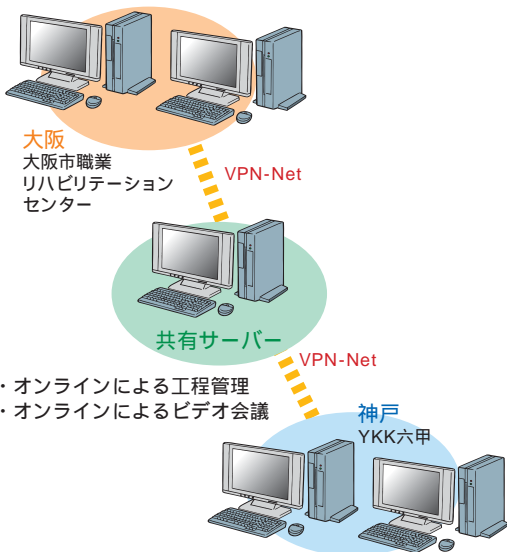
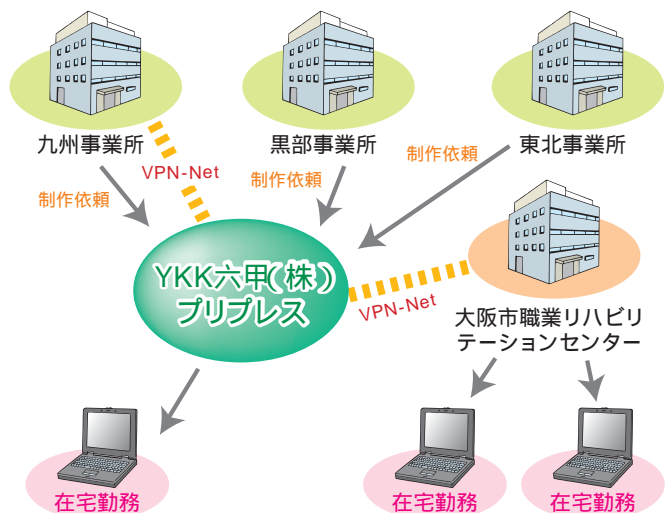
制作ネットワーク構築によってオンライン制作工程管理が可能になっただけでなく、オンラインによるビデオ会議が可能になり、制作の打ち合わせや実践的な技術指導が的確・迅速に行えるようになった。そのため、就職後に企業で求められる技術とのギャップが解消され、企業にとって即戦力となる人材の育成につながっている。

3 人材確保と職域拡大を目的とした在宅勤務の推進

同センターとの制作ネットワークを構築し、オンラインによるビデオ会議を活用した実践的な訓練プログラムが軌道に乗った結果、一通りの実習を終えた訓練生の在宅勤務への道が開かれてきた。現在、YKK六甲ではこれらの訓練生6名のグループ（同センター分室バーチャル工房）に月額160万円ぐらいの中難易度の業務を発注して、さらなる能力の開発・向上をバックアップしている。

それにより、実践的な人材開発と在宅雇用制度の可能性を追求している。このことは、また、現在通勤している社員についても、将来障害の進行などにより通勤が困難になった場合、在宅による勤務継続を可能にするシステムでもある。

今後、この在宅勤務システムの活用が進んでいけば、同社を核とした障害者の人材育成と在宅勤務への職域拡大の輪がさらに拡大していくことが期待できる。

大阪市職業リハビリテーションセンターとの制作ネットワークの構築
（専用回線による共同制作とビデオ会議）

在宅勤務の推進
＝YKK六甲プリプレスをキーステーション(中核)にした発注と
大阪市職業リハビリテーションセンター、
在宅勤務者を結ぶネットワークの全体イメージ

4 リモートコントロール方式の導入による、施設のさらなる改善

YKK六甲の本社ビルは、重い障害のある人に安全で快適な職場を提供したいとの思いから、徹底したバリアフリーを設計の基本コンセプトにして、機能性、安全性、快適さ、デザインを追求している。

その結果、すべての段差を解消し、ゆとりあるスペースを確保して、誰もが働きやすい職場環境となっており、平成12年には障害のある人が安心して生き生きと生活できる魅力ある街づくりに貢献しているとして、兵庫県から「第1回人間サイズの街づくり賞」を受賞している。

このように、建物内部のバリアフリー化は徹底しているものの、玄関や門扉の開閉とセキュリティシステムの操作は手動式で行われていた。そのため、玄関や門扉の開閉については、健常者や車椅子使用者以外の障害者が行っていた。ところが、クリエイティブな職場であるプリプレス部門では、ときには残業が必要であり、車椅子使用者にとって玄関や門扉の開閉が問題になっていた。

そこで、車椅子使用者から自分たちにも戸締まりとセキュリティの管理をさせてほしいとの要望があり、従来の手動式からキーホルダーでリモートコントロールできるスイッチに変更し、音声による確認の方法も採用した。その結果、建物内部だけでなく、外部も含めた完全なバリアフリー化が達成された。

今回改善された
リモートコントロールで
開閉できる玄関のドア

車椅子での移動を考慮し、
徹底したバリアフリーが
貫かれている建物内部

肢体不自由者からみた「働きやすい職場」とは

◆ まだサポートが必要な在宅メンバーの成長に期待する

プリプレス部門の宮崎達郎さん（平成11年入社）

高校3年のときに事故で下肢障害となり、入院後、兵庫県障害者技術専門学院で1年間CAD製図の勉強をしました。印刷製版の知識がないうえにマッキントッシュを扱ったことがなかったので、最初は大変でした。スタートしたばかりの会社ですから、業務上の先輩は誰もいないわけです。経験のある松岡課長に教わることはありましたが、現実には全員新人でゼロからの出発でした。

現在は、製版の業務分担・外部発注から印刷・製本までの工程管理を行っています。

外部発注先でも長年の付き合いのあるところは心配ありませんが、職業能力開発校関係はまだ熟練していませんので、難易度が低く納期に余裕のあるものを発注するようにしています。もう少し熟練し、人数が増えてくれば、きっと頼りになる存在になるでしょう。

◆ もっと手話を活用し聴覚障害者とのコミュニケーションを図りたい

プリプレス部門の九門香織さん（平成11年入社）

短大卒業後、普通のOLをしていたのですが、体調が悪くなって下肢障害になりました。

OL時代もパソコンを扱っていましたが、職業能力開発校で印刷製版の勉強をして入社しました。

現在は受発注管理の仕事をしています。見積作業だけでも年間4,000件もありますので、毎日かなり手一杯ですが、今後は手話を活用して、聴覚障害者の印刷加工メンバーとのチームワークをもっとよくしていきたいと考えています。